

不要な衣類 捨てるの待って

新型コロナウイルス感染拡大で在宅時間が増えたのをきっかけに、衣類などの整理を考えている人も多いのではないだろうか。だが、単に捨てるのはもったいない。古着を寄付して途上国の子どもも支援やリサイクルにつなげるなど、有意義な「断捨離」の方法を探してみた。

寄付、リサイクルで社会貢献

東京都内に住む女性会社員(50)は緊急事態宣言以降、自宅にいる時間が増えたことを機に家の中の片付けに時間を割くようになった。不要な洋服がかなりの数あったが、まだきれいな状態の物もあり、捨てることには抵抗があった。

そこで知人に教えてもらったのが、「古着deワクチン」という回収サービス。同サービスのサイト(<https://furuaid.evaccine.etsl.jp/>)上で3300円を支払うと、専用の回収袋が自宅に送られてくる。この袋に衣類、靴、バッグなどを入れて送り返すという簡単な手続きだ。

代金のうち、南西アジア、アフリカなどで流行している病気ポリオのワクチン代(5人分で約100円)が、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」(東

途上国にワクチン

専用袋で回収 →

洗浄、乾燥させ再生

使用済み羽毛 →

京都港区)に寄付される。残り送料、輸出費用などに充当。衣類はインドなどに送られ、現地の女性が仕分けて安価で販売する。

同サービスを使った女性は「物を減らせた上、社会貢献にもなるのでうれしい」と満足げ。運営する日本リユースシステム(同)の担当者、今野優子さんは「仕事や子育てで忙しい女性の利用が多い。日本の服の品質は良いので、海外で喜ばれています」と説明する。

使用済み羽毛の衣服・布団は、洗って再生させる「グリーンダウンプロジェクト」(三重県明和町)に提供する方法がある。羽毛は適切に手入れすれば何十年も繰り返し使えるが、現状はほとんどが焼却処分。一部生産国で水鳥から何度も羽毛をむしり取る虐待行為が問題にもなっている。

同プロジェクトで回収された製品(ダウン率50%以上)から羽毛を取り出す作業は、障害者の就労支援施設で行われている。洗浄、乾燥などの工程を経て、アパレルメーカーがコートなど新製品に使用する。

羽毛製品の寄付方法は地域によって異なるので、同プロジェクトのホームページ(<http://www.gdp.or.jp/>)を確認を。



不要になった衣類などを「古着deワクチン」の専用袋に入れて宅配で送る